

みらいん

わかばやし

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。

第 13 号



◀現在、宮城野区岡田の津波復興支援センターで活動する皆さん。今後は若林区内の活動場所も探していくそうです。
ブログも開設しています
マートルのブログで検索

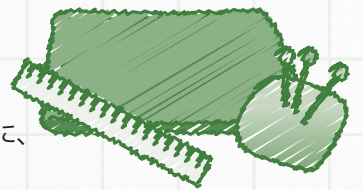
今月の
ひと

手づくりを通して広がる仲間

マートル
手芸サークル「myrtle」の皆さん

皆で笑い合える場所をつくりたかった

「自分が欲しいものをつくっていいんだよ。そんな呼びかけで1人、また1人とメンバーを増やしていった手芸サークル「マートル」の皆さん。六郷地区で被災した皆さんは、手仕事を通じて集うようになりました。「バラバラになってしまった人たちと集まる機会がないか」と考えていた代表の菊地裕子さんに、世話役を務める大友優子さんが、「手仕事をしよう」と提案。大友さんの自宅2階で浸水から逃れた布地を利用して、活動が始まったのです。布地を貼ったオリジナルマグネットを皮切りに、皆のアイデアで作品は数十種類まで増えました。「ただつくっているだけじゃ張り合いがないから」と、世話役の大友さんが販路を開拓し、現在は仙台市内2店舗で常時販売。さらにイベントなどにも出品をしています。作品づくりは「それぞれ好きな時間に自宅で」が基本。月に2回の集まりは打ち合わせとコミュニケーションの場になっています。「手芸未経験の方や、手先に自信のない方でも大丈夫。本当は手芸は二の次（笑）皆で話をして、笑ったりすることが一番の目的なんです。ぜひ参加してみてください」と菊地さん。新規メンバーも大歓迎だそうです。



2012

12月

ニッペ de カフェテラス

仮設住宅住民によるコミュニティ・カフェ



☉ カフェのはじまり



日辺グラウンド仮設住宅自治会へ、NPO法人ナルク宮城から「仮設住宅住民によるコミュニティ・カフェ事業」の提案があり、東六郷小学校のPTA役員や地域の民生委員だった女性4人(阿部栄子さん、大内由宇子さん、相沢和子さん、堀江しさえさん)が中心になって始めました。現在は、お手伝いの方を含む8人で調理から配膳まで行っています。

いざオープンしてみたら…



初めは、30人程度の参加者と考えていたのですが、始まってみると、50人以上もやって来るからびっくりしたり、とまどったりしました。現在では70~80人分を用意するようにしています。メニューは4人で考えているけれど、いつもニッペ de カフェテラス阿部代表がこうしようと言うとスパッと決まります。カフェ当日の朝は、6時前から準備を始めています。お米だけでも5升も炊くんです。

🐟 旬の魚を大量使用



相沢和子さんは「秋刀魚のハンバーグを作った時には、材料の秋刀魚を81匹さばいたんですよ」と、大内由宇子さんも「もう夢の中にまで秋刀魚が出てきて私を追いかけますよ、怖かった〜」と笑います。阿部代表は「メインメニューの他に、サラダやおひたし、自家製の漬物も持ち寄って、栄養のバランスも考えています」と話します。

皆でワイワイ楽しく!



「オライの豆でつくったずんだ餅は旨かったなあ。皆さんにも喜んでもらって良かった。特に男衆が旨い旨いって食ってたよ」と参加者の相沢照男さん。「朝早くから準備したり大変だけど、皆さんの笑い声が聞こえてきたら、それが何よりの喜びです」と阿部代表は笑っています。材料の仕入れから調理、そして大勢で楽しく食べること、お世話をすの方々と毎回楽しみにしている皆さんの心がひとつになる、にぎやかなカフェテリアがあります。

Nippes Cafe & Dining

食を通じたコミュニケーションの取り組み

日辺グラウンド仮設住宅では、住民が主体となった取り組みが始まりました。「にっぺ食堂」と「ニッペ de カフェテラス」です。ともに食事を通じてコミュニケーションを深めようという取り組みで、日ごろ家に閉じこもりがち高齢者や子どもたちと交流する機会をつくるには「おいしい食事を一緒に食べるのが一番」という発想から生まれました。どちらの取り組みも大変好評で、毎回大勢の方々が参加しています。

日辺グラウンド仮設住宅の場合



おいしいご飯で子どもたちをサポート



🍲 育ちざかりの子どもを集めるには



日辺グラウンド仮設住宅やその周辺に住んでいる子どもたちを対象に、「お昼ご飯を食べながら楽しく過ごしましょう」と呼びかけて始まったのが「にっぺ食堂」です。「六郷地区の子どもを守るニッペリア仮設住民の会」という会を立ち上げて、東北大学大学院教育学研究科と東日本大震災復興支援財団子どもサポート基金の支援を受けながら、子どもたちが一緒にご飯と遊びと学習のひと時を過ごせるような活動を目指しています。

🍽️ 皆が好きなメニューづくり

三本塚町内会会長の小野吉信さんを代表に4名の女性(大内修子さん、柴崎須美子さん、大友よし江さん、佐藤訓代さん)が集まりました。調理部長こと大内修子さんは、「初めは、どんな献立にすれば喜んでもらえるかな? と悩みましたが、自分の子どもたちが喜んで食べていたメニューにしようと思いつきました」と、毎回子どもにも大人にも人気のメニューが並びます。



🍷 おいしさプラス楽しさ



柴崎須美子さんは「子どもたちが震災というつらい目にあって、その後も不自由な生活をしているから、伸び伸びできる時間をつくってあげたかった」と言います。一緒に食事をするだけでなく、外で遊んだり、夏休みの宿題をしたり、英語のカード遊びをしたり、その時々によってお昼ごはんプラスアルファを設けているのが特徴です。

普通の1日よりちょっと楽しい「にっぺ食堂」

もりもりとお代わりをする男子、ちょっぴり恥ずかしげに食べている女子、どの子もにっぺ食堂が楽しみです。おいしいご飯と楽しいお兄さんやお姉さんが待っているから。アメリカ人サポーターのサラさんが来た時は、驚いてちゃんと話せなかった子も、今ではすっかり慣れて自分から英語を使っています。東北大学大学院教育学研究科の横田さんは「子どもたちの心が和むような時間にしたい」、サラさんは「深い友情を作る良いチャンスになればいいですね」と食堂への思いを語りました。田中真理教授は「外部からの支援ではなく、住民による住民のための、というコンセプトを大切にしたい」と語っています。



6日(土)

大きなずんどうに
愛を込めて
(六丁の目中西公園仮設住宅)



100人分は作れちゃうような大きなずんどうで煮込まれた芋煮汁。なんとこのずんどう、自治会長の私物なんです！愛情たっぷりの芋煮汁で体も心も温まりました。

7日(日)

謎のおばあちゃん
出現！
(JR南小泉アパート仮設住宅)



こちらの芋煮会でステージに現れたのは謎のおばあちゃん!? 正体はエンターテイナーのあつべとつべの助さんでした。陽気なステージに、会場は笑いの渦に包まれました。

19日(金)

ハテランドドライバーあきよさん
(二木地区)



津波で浸水した自宅をリフォームした堀江あきよさんのお宅を訪ねました。あきよさんは現在一人暮らし。寂しくはないかたずねたら「全然!一人暮らし長いんだもの」ときっぱり。ドライバー歴50年と言うあきよさんは御歳74にして現在も自らハンドルを握り出かれます。

20日(土)

ギターはライブ演奏
(七郷中央公園仮設住宅)



暑いぐらいの好天の下で開催された芋煮会。汗をかきながら芋煮汁をほおばった後は、プロによるサクセスとピアノのライブ演奏が披露されました。

21日(日)

大盛況区民ふるさとまつり
(若林区役所)



昨年よりも来場者数がアップした今年のまつり。盛り沢山のステージと豊富な出店で会場は大賑わい。仮設住宅の皆さんも元気に手づくり品を販売していました。

21日(日)

女子も大歓迎!
(七郷小学校)



スポーツ少年団(野球)荒浜ビッグウェーブの新人勧誘フェスティバル。女子2名を含む新人候補4名が参加して、ストラックアウトなどのゲームを楽しみました。これからも新加入大歓迎です!

28日(日)

エイヤーサッサー!
(卸町東2丁目公園仮設住宅)



待望の「秋祭り」を開催しました。あいにくの天気もなんのその。沖縄の歌や踊りで大いに盛り上がり、お住まいの方々も参加して、いつの間にか踊りの輪ができました。

10日(水) 手づくり作品一堂に
(仙台市福祉プラザ)



10日、11日と2日間にわたり開催された作品展へ。借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方々が手がけた手芸品や、書画、写真などが展示されました。若林区からは表紙でご紹介したマートルさんはじめ、皆さんの力作が彩り豊かに並べられていました。

12日(金) おなじみサロンがパワーアップ
(七郷市民センター)



借り上げ民間賃貸住宅の方を対象としたほっかほかサロンが、今回から社協さんとタッグを組みパワーアップしました。お茶飲みはもちろん、区の家庭健康課による健康講話や軽体操が加わり、プログラムが充実した、記念すべきリニューアル1回目のこの日、およそ20名の参加者が交流しました。
※開催は毎月第2金曜日10:00~七郷市民センターにて

●普段会うことができなかった中野小学校時代からの友達とチャアダンスをしています。チャアにはひとつのものを作り上げていく達成感があるんです。だからここ、福田町のチャアダンスクラブは私にとって重要な出会いと活動の場だと感じています。
宮城野区/仲丸美里さん

●仮設住宅で防災訓練がありました。炊き出しで「アルファ米」が振る舞われましたが、あのワカメ入りのご飯を見ているだけで、震災直後の避難生活を思い出してしまいました。なんだか胸が苦しくなってきました。あの記憶は簡単に忘れられませんね。
太白区/Tさん

●早くも自宅を再建したという人の話を聞くと、気持ち焦ってしまいます。でも、いい影響だと思って前向きに捉えないといけませんね。新しい土地に自分の家を再建し、日常生活を取り戻すことを考えて、一步一步進んでいきたいですね。
若林区/Sさん

読者から
ひとこと

荒浜再生を願う会

荒浜に戻って生活再建を目指す住民有志が中心となって活動しています。



▶震災にあった荒浜を題材にした自作の絵本「きえた海辺の町」を披露する石田ひろ子さん(10月22日の様子)

11月19日(月)定例会議

- 内容 ● イベントの報告
● 12月の予定について協議

当日の様子 11月18日に開催した「貞山掘でハゼ釣り」は、少し時季が遅かったため大漁には至らなかったが、参加者は大いに楽しみ、芋煮もおいしかった、との報告がありました。また、12月7日から12日までせんだいメディアテークで開催される「デザインウィーク in せんだい2012」にブース出展する事が確認され、役割分担について協議しました。

問い合わせ先: 代表 貴田喜一 090-8254-4270
定例会議: 毎週月曜日19:00~ 荒井小学校用地仮設集会所

荒浜移転まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。



▶荒井西地区の街区割サンプル図を熱心に検討する参加者

11月2日(金)定例会議

- 内容 ● 仙台市からの報告
● 移転協議会ニュースについて協議

当日の様子 市担当者から土地買収に向けての確認通知を出している事と、相続手続き未登記の方々にはこれから通知するので遅れる旨の説明がありました。また、荒井公共用地の申し込みが11月11日から始まる事が報告されました。協議会ニュースに関して、これまでの経過報告、現状の説明、荒井西地区の街区割、要望書について協議し、12月に発送することを決めました。

代表 末永薫(問い合わせがある場合は直接定例会議においてください)
定例会議: 毎週金曜日19:00~ サンピア2F 会議室4

東六郷移転推進協議会

種次中野地区にお住まいだった方が中心となり、浸水区域から六郷地区への集団移転に向けて先駆的に活動しています。



▶移転計画の具体的な流れがみえてきました

11月11日(日)定例会議

- 内容 ● 移転地の開発について仙台市との協議内容報告
● 開発手続きフロー図の確認

当日の様子 「集団移転計画書の作成、提出」、「仙台市の独自支援策である利子補給の受給時期」、「移転先である市街化調整区域の開発に関する許可」の3点について、仙台市との協議内容が報告されました。開発手続きについては、フロー図を用い全体の流れが確認されました。また、今後について、それぞれの資金計画のすり合わせや、仙台市を交えた協議を進めることなどが話し合われました。

問い合わせ先: 代表 落合義光 090-4882-3368
定例会議: 随時開催

明日の二本塚を考える会

東六郷地区における農地と宅地の一体的な整備や住民主体のまちづくりを目指しています。



▶住民を前に説明する市担当者

11月18日(日) 三本塚町内会全体集会

- 内容 ● 町内会からの報告
● 仙台市復興事業局及び若林区からの報告

当日の様子 小野代表より、神社、公会堂の復旧や地域内移転に関する状況など三本塚地区の現況報告がありました。行政側からは、東六郷地区の現地再建状況と、独自支援策の申請には期限があるので留意してほしい旨の連絡がありました。住民からは、防災無線の設置を希望する声や、災害支援について国への強く働きかけをしてほしいなどの意見が出ました。

問い合わせ先: 代表 小野吉信 090-3122-4843
会議、学習会は自由参加、随時開催

被災地レポート

赤貝漁師 佐藤政智さん (荒井地区)

取材

赤貝漁のベテラン 新たな船が年内に完成予定

冷たい海風が晩秋を感じさせる十一月初旬朝の仙台港。日の出とともに出港した小型漁船が、沖の方から続々と戻って来ました。大きなバケツいっぱい赤貝を船から降ろす海の男たちは、満面の笑みを浮かべていました。宮城県漁協組合仙台支所小型会の会長、佐藤政智さんは、祖父から数えて三代目の漁師で漁師歴約三十年のベテラン。仙台湾産が品質日本一と言われる赤貝漁を専門



漁から帰るとすぐに全員で獲れた分を確認し合います

としています。佐藤さんは、東日本大震災の津波で、深沼海水浴場のすぐそばにあった自宅を流され、所有していた船「智栄丸」(トシ)も失いました。昨年十月に北海道の中古船(四・九ト)を購入し、赤貝漁に適した改造修理のため造船所に預けており、年内の完成を心待ちにしています。

海のがれき撤去作業を経て、赤貝漁を再開したのは今年九月に入ってから。仲間の漁師たちと共同船に乗って漁をしています。「自分の船がないってのは、手がもがれたような感じだよ。前は獲った分だけ金ももらえたのに今は手伝いだから収穫量が多かろうが少なかろうが、固定の金額しかもらえねんだ。でも仕方がねえさ、こういう状況だから。(自分の)船ができあがるまで辛抱さね」

震災の体験を経てもお 故郷の海へ思いを馳せる

震災当日、佐藤さんはいつものように漁を終えていました。知り合い



震災前、佐藤さんの自宅があった荒井。表札代わりに使用していた「智栄丸」の看板だけが残ります

の船のエンジンが不調だということで再び仙台港へ。船に乗りエンジンを調べていた時、激しい揺れに襲われました。目の前の海は渦を巻き、どどん海水が引いていきました。ラジオを聞いてみると、仙台空港が津波に襲われたという報道が。一目散に車に乗り込み、避難所へと向かいました。途中、バックミラー越しに真っ黒いものが追ってくるのが見えたと云います。

現在、一家で荒井地区のマンションで暮らしている佐藤さん。「生まれてからずっと海の目の前で暮らしてきた、朝起きて、すぐに歩いて海の状態や天気、波の音で自然を見てきた。それが、今はさっぱり分から

ねえ。海に行くのに、車に乗って行かなきゃいけないんだ。不自由だ」宮城県漁協組合仙台支所に登録している赤貝漁の漁師は、佐藤さんを含めて震災前と同じ九人。廃業する人はいませんでした。震災があった昨年の収穫量は八・五トにとどまりましたが、今年の収穫量は五十ト以上。久しぶりの豊漁が漁師たちのせめてもの明るい材料になっています。放射能の影響で風評被害も懸念されましたが、仙台湾の赤貝は毎月一回の定期検査で一度も放射性セシウムは検出されていません。

自分で操業してはいますが、真の再スタートと話す佐藤さん。「俺の考えだけだよ。津波は自然現象だから、しょうがねえんだ。いろんなもんなくなっただけ、いまだに、海は大好きなんだ」



バケツいっぱいの赤貝をひとつ手に取り、満面の笑みを浮かべる佐藤さん

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

多重債務でお悩みの方はいませんか?

東北財務局では、専門相談員を配置し、自らの収入で返済できないほどの借金を抱え、お悩みの方からの相談に応じています。相談者の抱える借金の状況を丁寧に聞き取りするとともに、必要に応じて弁護士・司法書士などの専門家に引継ぎを行います。相談無料、秘密厳守。

対象 多重債務でお悩みの方(自営業者も含む)
時 月～金曜日(祝日、12/29～1/3を除く)9:00～17:45
問 東北財務局 金融監督第三課
青葉区本町3-3-1 仙台合同庁舎4階
022-266-5703(直通)、022-263-1111(内線3080)

「ちびひろ」で遊ぼう!

NPO法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークでは、幼児連れの親子のあそび場「ちびひろ」を設けています。大広間でのびのび遊んだり、新聞紙や段ボールを使って工作をしたり、毎回楽しい遊びがいっぱいです!参加無料、申込不要。

対象 幼児連れの親子ならどなたでも
時 毎週木曜日 10:00～12:00
場所 上荒井公会堂(若林区荒井高屋敷7-15)
問 070-6492-6232冒険あそび場(あそびば専用携帯)

“昭和の仙台”8ミリで楽しむ茶会&TBC 藤沢アナと方言かるたで遊ぼう

昔の映像を見ながら、お茶とお話を楽しむ会です。今回はアナウンサーの藤沢智子さんが参加し、方言かるた遊びもします。参加無料。

対象 どなたでも。直接会場にお越しください(定員30名)
時 12月13日(木)13:30～15:30
場所 みやぎ生協 沖野店 2階集会室
問 022-387-0656NPO法人20世紀アーカイブ仙台

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
ちくちく工房(お手玉づくり)	泉区のみなし仮設にお住まいの方	12月7日(金)	10:00～12:00	泉区中央市民センター	9月の黒松サロンで好評だったサロンの第2弾。手を動かしながらおしゃべりしましょう	不要	支えあいセンター いずみ 022-772-5755
あらまちサロン	若林区荒町地区にお住まいの被災者の方	12月12日(水)	10:00～12:00	荒町市民センター	トーンチャイム演奏茶話会	要(電話)	支えあいセンター わかばやし 022-781-0559
雄勝サロン	石巻市雄勝で被災され仙台市に来られた方	12月14日(金)	13:30～15:30	宮城野区中央市民センター	茶話会	要(電話)	支えあいセンター みやぎの 022-292-0990
きまちハートふる「クリスマスヒーリングコンサート&交流会」	木町通市民センター周辺にお住まいの方ならどなたでも	12月15日(土)	13:30～15:00	木町通市民センター	クリスマスコンサート、地域の方と一緒にレクリエーション交流会	要(電話)	支えあいセンター あおば 022-217-7234
ほのぼの富沢サロン	富沢周辺のみなし仮設にお住まいの方	12月20日(木)	11:00～13:00	富沢市民センター	調理実習(豚汁とおにぎり)を皆で作ります	要(電話)	支えあいセンター たいはく 022-217-7234

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

健康相談などのお知らせ

電話：022-282-1111(若林区家庭健康課・障害高齢課)

相談名	開催日	時間	会場	内容	担当	問合先
母と子の健康相談	12月21日(金)★	13:30～14:30	若林区役所3階	育児の心配や母と子の健康についての相談(保健センターでの歯科相談は隔月で行います)	保健師・栄養士 ★の日は歯科衛生士もおります	家庭健康課 内線6772
	1月8日(火)	9:30～10:30	七郷保健センター			
子どものこころの相談室	12月7日(金)	9:30～10:30	六郷保健センター	震災後の子どものこころの健康に関する相談(要予約)	児童精神科医	家庭健康課 内線6785
	1月11日(金)★					
健康づくり講話	12月12日(水)	13:30～14:30	若林区役所3階	急性・慢性の副鼻腔炎について	ごとう耳鼻咽喉科医師	家庭健康課 内線6785
健康づくり相談	12月12日(水)	14:30～15:30		健康相談	保健師、栄養士、 歯科衛生士	
こころの健康相談	12月12日(水) 12月20日(木) 12月25日(火) 1月10日(木)	13:30～16:00	若林区役所3階	こころの健康に関する相談(要予約)	精神科医師、精神保健福祉相談員、保健師など	障害高齢課 内線6752
震災こころの相談	随時(土日祝日除く)	8:30～17:00	若林区役所1階 窓口など	震災によるストレスやこころの相談	保健師など	障害高齢課 内線6307
高齢者総合相談	随時(土日祝日除く)	8:30～17:00	若林区役所1階 窓口	高齢者の健康や介護・福祉の相談	保健師など	
認知症高齢者の家族交流会	1月11日(金)	13:30～15:00	若林区役所3階 健康教育室	認知症の方を介護している家族の交流会	保健師など	障害高齢課 内線6307
認知症の介護講座と相談会	12月8日(土)	講話：13:30～14:30 相談：14:30～16:00	若林区中央市民センター(別棟)第3会議室	講話：介護講話「家族が行う介護のポイント」 相談：相談会	「認知症の人と家族の会」 宮城県支部、保健師	

厳しい現実の裏打ち

「この広い大きな家に長年住んで来たので、今の仮設住宅の狭さには耐えられなくて戻ってきた」と、津波が突き抜けて破壊されても、なつかしの我が家の大掃除をしてゐるご婦人がテレビのインタビューにこたへてをりました。

思へばあの敗戦後の焦土と化した日本。ほとどの家庭も貧しかったあの時代を経験してゐる人達にとっては、今の何もかも便利な恵まれた暮らし振り有難いと思はずにはゐられませぬが、ひもじさを知らずに育った新しい人々は今の生活が当たり前だとすると、被災によって一瞬にして豊かさからゼロどころか、マイナスの境遇への急転回ですから、身と心がその現実には追いついて行かないのではなにかと、いざさか心配でもあります。

そんな人間の苦悩を一身に背負って、救って下さるのがあの「観世音菩薩」だと世間では言ひ伝えられてをりますが、肝腎のお釈迦様はその悪い状況を好転させて皆を救済するなどは言つてをらず、私共の家の安全の祈りにはいつも「家内危険が裏打ちされてゐることを忘れちゃいけないよとおっしゃつてゐるのです。」

徳照寺 住職 佐藤和丸

佐藤和丸 (さとう かずまる)

若林区日辺の浄土真宗大谷派・徳照寺住職。情報誌への執筆や居酒屋での説法会などを行う、ユニークな人柄と行動力の持ち主。

クロスワードパズル

出題
石田竹久

こたえ

A	B	C	D
---	---	---	---

1	2	3	4		
A					
5		6			
7			8		9
		10			
			B		
	11		12	13	
14			15		16
	C				
17				18	
				D	

タテのカギ

- ①仙台市のお正月といえばこれ。明けて2日から、福袋や特価品で大賑わい
- ②ギリシャ神話の最高神
- ③仙台市で生まれた環境保護ヒーローといえば、植樹〇〇
- ④仙台市で大晦日の料理に欠かせないのが、〇〇〇カレーの煮付け
- ⑥「注連縄」の読みは？ お正月に玄関などに飾ります
- ⑧仙台市の縁起物、青いことが特徴の〇〇〇〇だるま
- ⑨宮城県庁の組織で、中学校までの指導などを管轄する〇〇教育課
- ⑩2人で歌ったり、ピアノを2人で弾いたりすることを指して
- ⑬〇〇〇通りといえば、主要な繁華街のこと。仙台市では、光のページの会場にもなる、定禅寺通や青葉通がそうでしょう
- ⑭故事からの言葉。敵に〇〇を送る
- ⑮野暮の反対語。あか抜けていたり、人情があったり
- ⑯古く公家などが使っていた一人称

ヨコのカギ

- ①仙台市で雑煮に欠かせないのが、焼き〇〇
- ③仙台市の歴代最低気温が-11.7℃。この「-」記号を読むと？
- ⑤通販といえば、〇〇〇〇販売の略
- ⑦目を細くして開けること
- ⑧東北地方の山間部で、古い猟法で狩りをする人
- ⑩俗に、仕事に必要な一揃いは、〇〇〇道具
- ⑪宮城県の旧国名は、近県と合わせて陸奥でした。では、現在の山形と秋田の2県にあたる旧国名は？
- ⑫ことわざ。鶴は千年、〇〇は万年
- ⑬ことわざ。〇〇に交われば赤くなる
- ⑮新年の干支、ヘビの文字を含んだ、〇〇〇〇市の金蛇水神社。仙台市に分祀があります
- ⑰仙台市で初詣といえば、やはり〇〇〇〇八幡宮が代表格
- ⑱東北新幹線、仙台駅から新青森駅までの距離は約350〇〇

前回のこたえ

A カ B ゼ C ヨ D ボ E ウ

でした。

1	2	3	4	5	6	7	8	9
ハ	セ	ク	ラ	ノ	リ			
5	ク	リ		6	イ	ド	ウ	
	サ		7	カ	キ			9
10	イ	ワ	デ	12	ド	ン	コ	
	13	サ	ン	14	シ	ン		ウ
15	ゼ	ン	16	ヨ	ト	ウ		
	17	イ	フ	ク	19	ソ	ボ	

編集後記

あんなに暑かった夏が過ぎて、あっという間に年の瀬です。お年越しの準備はいかがですか？ まだ早いだろう！なんて思っていると、すぐにやって来ますよ～って、自分に言っているんですが…。(きくち)

編集部に入って1年たちました。日々、人生の先輩方と接していて、仙台訛りも板についてきました。地元の言葉で皆さんと接していきたいので、改めてよろしくお願ひします。(佐藤)

●●● お住まいを移転される方へ ●●●

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛 先：〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL：022-390-5755
FAX：022-390-5756 e-mail：kawara@mwww.or.jp